

東部健康福祉センター だより

<第1号(平成20年1月4日(金)発行)>

静岡県東部健康福祉センター(東部保健所)発行

〒410-8543 沼津市高島本町1番3号

(電話) 055-920-2075 (FAX) 055-920-2191

(ホームページアドレス)

<http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-730/index.htm>

～地域の皆様に、健康・福祉についての「耳寄りな情報」をお届けします。～

<今回の情報>

- 1 民生委員・児童委員が交替しました!(平成19年民生委員・児童委員の一斉改選)
- 2 献血に御協力ください。(地域の献血一口メモ)
- 3 ～<編集後記>～(東部健康福祉センター所長のひとこと)

民生委員・児童委員が交替しました!

(平成19年民生委員・児童委員の一斉改選)

皆さんは「民生委員」をご存知ですか?

お住まいの各地域には、「民生委員法」という法律に基づき、「福祉に関する住民の相談」、「福祉関係機関や窓口への協力」等の活動をしていただく民生委員・児童委員の方々があり、様々な活動をしていただいております。なお、「児童福祉法」の規定により、民生委員は全て児童委員を兼ねています。

今年はこの民生委員の方々の3年毎の交替の年にあたり、当センター管内の5市3町でも

12月1日以降、新任、再任を合わせ約1,000人の委員の方々が各地域での活動を始めました。

また、12月5日(水曜日)には、「グランシップ」(静岡市)で、新しく委員となった皆さんに向けて全体研修会が開催され、会場は、県内各地域から集まった皆さんの意欲・熱気で一杯となりました。



左の写真は、12月8日(土曜日)、長泉町で開催された「長泉町民生委員・児童委員及び主任児童委員委嘱状交付式」の様式です。

長泉町でも、「地区担当委員」と「主任児童委員」をあわせ78名の方々が、厚生労働大臣及び県知事からの委嘱状を受け取られました。

※「民生委員・児童委員」について…

制度の前身は大正時代の「済世顧問制度」です。その後「方面委員」となり、戦後「民生委員」という名称に変わりました。元々の制度の

創設から90年を経た現在、地域住民の立場に立った地域福祉の相談役としての期待がますます高まっています。

民生委員は「高齢による生活上の心配」、「母子・父子家庭での子育ての悩み」、「心身の障害についての相談」などを担当しますので、相談を希望される場合は、お住まいの市町の福祉担当課・室に連絡してください。担当の民生委員・児童委員を紹介していただけます。

献血に御協力ください。

(地域の献血一口メモ)

病気や怪我の治療など、医療で使われる血液（血液製剤）は人工的に造ることができません。また、血液は長期間保存ができないので、常に新しい血液を確保する必要があります。

血液は、皆様の善意の献血によってまかなわれていますが、県内の献血者数はここ数年、減少傾向にあります。今後さらに少子高齢化が進めば、献血を担う若い世代が減り、さらに血液の確保が難しくなると予想されます。

また、現在、県内の医療機関では400ml 献血由来の輸血用血液が不足しています。

400ml 献血は、200ml 献血より量が多いだけでなく、輸血の安全性を向上させることができる献血方法です。

必要な血液の確保には、健康な方々の定期的な献血へのご協力が欠かせません。

これから本格的に寒くなる時期ですが、冬場は風邪などで体調をくずして献血できない人が増えるため、血液が不足しやすくなります。皆様のより一層のご協力をお願いします。

献血は、献血バスや、献血ルームで行うことができます。

【献血バス】

問い合わせ先：東部保健所衛生薬務課（TEL920-2107）

【献血ルーム】

「献血ルーム・エイブル」

（沼津市大手町 3-1-3, エイブルコア 6F）

受付日：年末年始を除く毎日 フリーダイヤル：

0800-200-8055

受付時間：全血献血 10：00～13：00、14：00～17：30

成分献血 10：00～12：00、14：00～16：30



＜総編集後記＞

…創刊にあたり、東部健康福祉センター所長の飯田陽通（いいた はるみち）から、皆さんにひと言、お話しします。

「変化の中の第一歩」

このところ、「食品についての偽装事件」や「C型肝炎と国の対応」など、健康福祉の窓口としても気にかかる報道が多く、当センター窓口にも様々な方々から訪問、電話相談をお受けしております。

「医療制度」や「介護」などの仕組みは、現在、将来を見据えた“軌道修正の作業中”で、言わば「変化の真っ只中（まっただなか）」にあります。

県民(地域住民)の皆さんの健康や福祉に関する関心・興味の変化が、相談いただく内容の変化につながっているようにも感じられます。

当センターでは、健康福祉に関する皆さんの身の回りの変化について知っていただき、併せて、当センター窓口ではどのような仕事をしているのか御理解いただくひとつの手段として、この資料発行をはじめました。

所内職員が業務の合間をぬい、やっと始めた作業です。しばらくの間は、拙い（つたない）説明が続くかもしれませんが、ぜひ第2号、第3号と今後の発行分も読み進めていただければ、又その中から少しでも皆さんのお役に立つ情報を提供できれば、と切に願っております。

※最後まで御覧いただき、ありがとうございました。



2009年3月開港
富士山静岡空港